

す。アフリカのルワンダという国は以前大変な内戦がありました。その後、国を再建して6位という結果を出しています。残念ながら日本は149ヶ国中110位でした。

**日本はかなり低い結果ですが、その順位に影響していることは何だと考えますか？**

議会の議員や企業の管理職など指導的地位にいる女性が少ないということが一番の原因だと思います。この状況を変えるべく政府も企業の側も努力をしているのですが、今の日本は家事・育児・介護では、まだ女性の負担が重いですからね。その構造的な部分を改善しないと、管理職の仕事を引き受けられないという女性も多くいるでしょう。議員になるなんてとんでもないということになるわけです。女性は背負っているものが多すぎるので、その構造にメスを入れて変えていかないと、指数はなかなか上がっていかないと思います。

**日本は女性のキャリアが軽視されている傾向がありますが、その点についてどのようにお考えですか？**

「男性は外で働き、女性は家を守る」という伝統的な固定観念が社会の中で多く残っているのが一番の問題ですね。女性が出ているのに対して意識にまだ否定的な部分があるように思います。

しかし女性差別撤廃条約を日本が1985年に批准した際に、法律等を変更したことで人々の意識も随分変わりました。国籍法が改正され、高校家庭科が男女共修となりました。労働面における男女の均等待遇を実践する男女雇用機会均等法という法律もその際に制定されました。やはり条約の批准や法律の制定・改正は人々の意識を変えていく一つのきっかけになると思います。

**「男性、または女性はこうあるべきだ」という先入観をなくすために必要なことは何だと思えますか？**

教育や啓発だと思います。幼児期はまさに価値観が固まってくる時期なので、幼児期に「男らしさ女らしさ」のバイアスに支配されると、本来のその人らしさがなくなったり、性的少数者の人たちを追い込むことにも繋がります。

セクハラやパワハラなどハラスメントに関する色々な概念も定着してきていますが、何が良くないことなのか本質を理解しないで、言葉だけが先行している傾向もあると思います。啓発による正確な概念の理解も大切ですね。

女性が男性のように振る舞うことではなくて、一人一人の個性や能力を生かしてその人らしく生きることが、ジェンダー平等につながります。ジェンダーに対する先入観が、人を生き辛くしていることを理解するためにも、ジェンダー教育は大切だと私は思います。

**今一番関心を持っているジェンダー問題は何ですか？**

セクハラ問題です。性被害や性差別を許さず声を上げようというアメリカ発祥の「#Me too」という活動が世界に広まりましたが、日本で女性が声を上げることが簡単ではなく、声を上げた女性がかえってパッシングを受けることがあります。性別や性犯罪に対して、泣き寝入りをしないうと同時に、声を上げる人を守る仕組みづくりも必要です。

現在、日本もメンバーになっている、国

※国際労働機関（ILO）・社会正義と人権および労働権を推進するための国連の専門機関



際労働機関（ILO）※で、職場における男女に対する暴力とハラスメントを禁止する条約を作ろうとしています。日本には職場のパワハラなどハラスメント全般を規律する法律がなく、セクハラ等は防止措置があるだけで禁止規定ではありません。この条約ができて日本の批准が実現すれば、国内法の整備のための突破口になるので、推移を注目していますね。

**今回、マイセルフ品川プラン策定検討委員会の委員長をされていますが、計画の概要を簡単に教えてください。**

従来の品川区行動計画は男女共同参画がメインでしたが、今回は「配偶者暴力対策基本計画」と「女性活躍推進計画」を加えて、射程が広がった感じですね。

特にDVなど女性に対する暴力や配偶者暴力の問題は、従来社会の中での位置づけが難しいところがありました。国連でも、DVなど女性に対する暴力の問題が90年代